

GAKUTOのPOINT ⑦ 安全・防災教育

学校や通学路での防災

学習中に火器や薬品を扱う理科は、最も安全教育が必要です。火傷をしたとき、薬品がついたときなどの活動中に起きると考えられるものについての注意と対応を明記しています。また、地震などの自然災害の際に理科室でとるべき行動や、通学路での安全について学習したことから考える活動も取り入れました。



4年 p.64-65

災害に備える

学習場面以外でも、日頃から防災意識をもつことや、実際に災害が起きたときにどうするかを考えることが必要です。5年「川と災害」、6年「火山の噴火と地震」などで、どのような災害がこれまでに起きているか、今後の予防のためにどのようなことがされているかなどについて学びます。



ものの燃え方と初期消化について、つなげて考えます。

6年 p.27

地震が起こったとき

- 机の下にもぐるなどして、頭を守ります。
- 身をかくすところがない場合は、教科書やノートなどで頭をおおい、できるだけ低い姿勢をとります。
- 火のそばからはなれます。ゆれがおさまってから火を消します。

実験のあと

- 残った薬品は、決められたところへ集めます。



- ゴミは分別して、捨てます。燃やせるゴミ、燃やせないゴミ、ガラス、かん電池などに分けず。

- 使った後の容器などは、きれいに洗い、元の場所にしまえます。

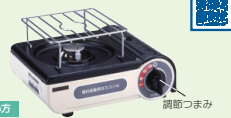


- 水道のじゃ口やガスの元栓が、しまっているか確認します。

火をおつかうとき

- 準備
 - 机の上にぬれぞうきんや、燃えさし入れ(マッチを使うとき)などを用意します。
- 注意
 - 火のそばには、燃えやすいものを置けません。
 - 火をつけたまま、ものを動かしません。
 - 火をおつかう実験で使った器具は熱くなっているため、すぐにはさわりません。
 - 火がきちんと消えているか確認して、決められた場所にしまえます。

- 実験用ガスコンロ



使い方

- カチッと音がるまで、調節つまみを左に回す。調節つまみを回したら、「消」にもどしてやり直す。
- 調節つまみを回して、ほのおの大きさを調節する。
- 調節つまみを「消」まで右に回して、火を消す。

やけどをしたとき

- まず先生を呼びます。
- すぐに冷たい水でよく冷やします。

書き出しの調子

□ みみ

□ かん

□ 記録

□ 調子

■ 実験器具の使い方

223

災害から命を守るために必要なことを考えます。

考察 ♡♡♡

これまで調べたことをもとに、火山の噴火や地震による災害から自分たちの命を守るには、どのようなことが必要か考え、話し合ってみよう。

- 火山の噴火や地震が起こったら、どのように行動すればよいか。
- 日ごろから、どのような備えをすればよいか。

ふだんから備えておかないと、急に起こったら…

家でも、ひ難いときに必要なものを準備しておかないと…

大田区ハザードマップ (震災編) 令和2年4月発行

ハザードマップからひ難する場所や、避難所…

家族とも話し合っておこう。

火山の噴火や地震が起こったら、災害から自分の命を守ることを第一に考えましょう。命を守るには、災害時にできるだけ早く行動することが大切です。

6年 p.150

GAKUTOのPOINT